

2010年11月

第43号

発行所
高野山大学図書館
閲覧室

それゆけ！ としよかんだより

古典籍逍遙

【第九回】 図書館長 武内孝善

『後七日御修法請僧交名 御再興已来』 一冊

【書誌データー】

袋綴装、一冊、たて25・3センチ、よこ17・2センチ、無界、緒紙、半丁9～11行、墨付き56紙(表紙なし)、朱書の詳密な傍註あり、

後七日御修法とは、毎年正月ののちの七日、すなわち八日から十四日までの七日のあいだ、宮中真言院において、真言宗の長者を大阿闍梨として真言の大法を修して、一つには天皇が一年間お健やかに過ごしくださり、皇統が末永く続きますことを、一つには国家が安泰であり、五穀が豊かに稔りますことを祈念する、真言宗におけるもっとも厳かな法会であります。

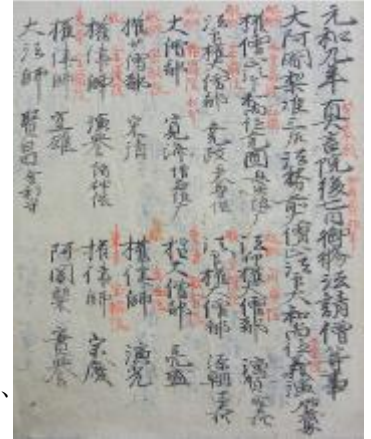
今回、ご紹介する『後七日御修法請僧交名』とは、後七日御修法に出仕した供僧十四名、大・小行事各一名、本供物請二名ほんくもつうけの計十八名の名前を書きあげた一覧(請僧交名)を集成したものであり、元和九年(1623)から享保七年(1722)までの百年分を収録しています。では、題名に付された「御再興已来」とはどういうことでしょうか。このことについて、元和九年の条の末尾に記された一文が参考になります。その文を要約してみましょう。

後七日御修法は、その起源を唐朝に尋ねると、しゆくそう肅宗皇帝の乾元元年(758)に始修され、わが国では仁明天皇の承和二年にはじめて修された。この年から長祿四年(1460)まで、六百二十年あまり連綿と修されてきたが、寛正二年(1461)にいたって突然退転し、いたずらに百六十三年の月日が流れた。思いがけず、昨年こぞの十二月と今春に天皇の勅命がくだり、元和九年の新春に道場を紫宸殿に構え(御修法を再興することになった)と。

ここに記されているように、わが国では承和元年(834)十二月、空海が天皇にお願いし勅許をえて、翌二年(835)正月から修されたとみなされています。しかし、全く史料が残っていないので、本当に行なわれていたかどうか判りません。実際に修された痕跡が残っているのは観賢の時代からです。ともあれ、承和二年から継続して修されてきた後七日御修法でしたが、長祿四年(1460)を最後に中断し、百六十三年後の元和九年(1623)に再興されたといえます。よって、「御再興已来」とはこの再興されてから以降の交名を集成している、との意です。

後七日御修法をはじめると、空海はつぎのように記しています(仁明天皇への上表文)。「如来の説法には浅略趣と秘密趣の二つがある。浅略趣とは、諸経のなかの長行ちやうこうと偈頌げしゆをさし、たとえば『太素経』『本草経』が病の原因・理由とその病をとりのぞくに効果がある薬物・植物を説くようなものという。一方、秘密趣とは、諸経のなかの陀羅尼をいい、薬を調合し飲むことによって、実際に病を取りのぞく教えであり、病気を治すには必ず病に応じた薬を調合し服食ぶくじきしなければならぬ。したがって、御齋会ごさいえにおいて『最勝王経』を読み、義を談ずるだけでは醍醐の味(=最高の功德)をえることはできない。だから一室を特別に荘厳し、尊像を陳列し、壇を築いて密教の法を修すると醍醐味を成就することができるので、ぜひ修法を行ないたい。」と。

それはさておき、再興された御修法は明治四年(1871)まで続けられたけれども、諸寺諸山の勅会の停廃を命じた同四年九月の太政官布告により、翌五年の御修法から再度の中断を余儀なくされました。明治十六年、道場を東寺灌頂院に移して復興され、今日にいたっています。



図書館の歴史(5) 図書館職員 木下浩良

前号で、図書館が完成する前の昭和2年12月に、大学生による同盟休校事件があったことを紹介しました。この当時の学生は、高野山では到底大学の完成はできないと、大学を山下に置くようストライキを決行したのです。これに対して、大学当局は速やかな高野山大学の完成を大学生に約束しました。

その後、同4年に図書館は完成しました。大学生による移転運動は、これにより沈静化したとされています。さらに図書館周辺には、新校舎等が建設されることになりました。学生・教職員は共に鍬を取り、校地の開墾に汗を流しました。これが、今に続く校地・校舎となります。

いずれにしても、高野山大学が旧制大学となり、大学の充実のためになされた第一のことが、最先端の建築技術を駆使した図書館建築の着手でした。校舎等はさて置き、新たに図書館だけが現在地に建てられることになったのです。このことは、特筆されます。

図書館入口(現教職員昇降口)にはめ込まれた銅板の「高野山図書館建設記」には、「其充実発展を期すると共に永遠に法身の恵命を相続する宝庫として維持せられんことを」と、明記されています。まさに本学図書館は、真言宗でいうところの法身(真理そのもの)を永く後世に伝えるための宝の庫として建設されたのでした。(おわり)

図書館通信

●第3回図書館ミニコンサート●

『お箏ミニコンサート』

演奏：桜野清里先生(高野山大学非常勤講師) 糺谷有紗さん(同女子寮寮監) 青木正寛さん(同卒業生)

日時：11月8日(月) 17:00~17:30 場所：高野山大学図書館閲覧室

学生さん・一般の方どなたでも無料で参加していただけます！当日直接会場にご参集下さい。お待ちしております！

9月30日(木)第4回図書館文化講座を開催しました！

『感染症の恐怖-予防対策-』

丑木晶子さん(本学4回生)・野村知子さん(同1回生)

元・看護師のお二人が、専門的に、なおかつわかりやすく感染症やその予防策について講義して下さいました。正しい手洗いの仕方や健康のための爪もみ療法なども行われ終始なごやかな雰囲気でした。



二人一組で爪もみ療法をする様子

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町高野山385 高野山大学図書館 閲覧室

Tel:0736-56-3835

Fax:0736-56-5590

E-mail service-lib@koyasan-u.ac.jp



(編集後記)

今回で『図書館の歴史』は終わりです。

ご愛読ありがとうございました！

(石原)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31	1	2	3	4	5	6

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	1	2	3	4

	9:00-18:00		13:00-18:00
	13:00-18:30		9:30-16:30
	9:00-18:30		閉館

切り取り